

人生二毛作

おみや・とものぶ ノンフィクション・ライター。
1948年、茨城県生まれ。中学卒業後、東京下町のネ
ジ販売会社に集団就職。ギター流し、週刊誌編集者など
二十数回の転職を繰り返す。現在に至る。政治、経済、
社会問題など幅広い分野で執筆。『平山郁夫の真実』
(新講社)など著書多数。

パソコンで静物画や風景画な
どの絵を描く。大熊勇雄(いさ
お)さん(66)は、このパソコン
水彩画教室の講師が仕事。カバ
ンからiPadを取り出して、
実際に描いてみてくれた。

「作品は絵手紙にして人に送
ったり、額縁に飾ったりして楽
しめます」

前職はソフト開発会社で教育
用コンテンツを企画するプロダ
クトマネジャー。景気の悪化で
きつかけ。

会社が勧奨退職者を募集したの
を機に、57歳で早期退職。「再
就職する気はなかった。好きな
ことをやろう」と、仕事は自分
でつくり出すことに。退職後、
財団法人ニューメディア開発協
会が推進する「シニア情報生活
アドバイザー」の資格を取得。
ここから仕事のネットワークが
広がっていった。パソコン水彩
画の仕事もシニア支援の活動が
きつかけ。



「パソコン水彩画を教えるほ
りに力を尽くす大熊勇
雄さん」

作って本格的に始まっ
たわけだ」

2003年に横浜市
保土ヶ谷区に「パソコ
ン水彩画教室」を開設
し、講師業をスター
ト。「現在、生徒は6
人。80過ぎの女性もい
ます。この教室は1
コース3カ月6回で受講料は1
万2000円ですから、計7万
2000円入るわけです」。東
京・四谷のシニアライフ支援団
体が主催するパソコン水彩画教
室でも教えている。こちらは若
干の謝礼と自宅がある横浜から
の交通費が出る。

「パソコン水彩画を教えるほ
か、商店街の絵を描いてくれと
か、HPを作ってほしいとか、
ちょこちょこ仕事がありま
す。年金もあるし、毎年1回は
妻と海外旅行に行っています。ぜ
いたくはできないけど、ま、何
とかやっています」

もう1つ仕事がある。大熊さ
んのセカンドライフの原点とな
ったシニア情報生活アドバイザー
の仲間を増やし、シニアの生
きがいづくり、活動の場を開拓
することだ。大熊さんが代表を
務めるNPO法人「シニアSO
HO横浜・神奈川」でシニア情
報生活アドバイザーの養成講座
を開いている。定年後、何をし
たらいいかわからない人は、
受講するのもいいかもしれない。

パソコン水彩画で第2の人生をエンジョイ

一緒に卒業旅行に行つたはずなのに...

高校時代の仲良し5人組で集ま
ることになった。私以外は、全員
関西在住なので、舞台は大阪。何
年かに1度は個別にそれぞれと会
っていたのだが、グループ5人全
員が一堂に会するのはなんと卒業

つかりもののA子の仕
切りで、夜景の綺麗な
レストランで夕食。D
子だけは、家庭の事情
で、翌日のランチ集合
となったので、まずは

の5人組

坂道

ら」と肩を叩いてくれると、すか
さず、一番記憶力のすくれた(本
当に早押しクイズのようにすべて
のエピソードを即答してくれる恐
ろしい女。A子が、「私が稗田阿
礼と名づけて、金づつ(二かかり)

きつて、こういう話し方をする)
このたまうではないか。おお、同
士よ。

D子の記憶喪失ぶりは、私以上
で「へ? わし、何組じゃったっ
け?」「担任って誰じゃろう」の
世界。揚げ句の果てには、「そう
そう、×××ンってスポーツ万能
の同級生がいたやん。その息子さ
んがいま、高校野球の強豪Q校の

白川道